

図書館だより

vol.33
No.3

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

北海学園大学附属図書館報 第33巻3号(通巻199号) 2011.10.27



CONTENTS

図書館職場の雇用にみる不条理

川村雅則 2

井上真蔵 速水孝夫

私が薦めるこの1冊 3

レファレンス・カウンターを紹介します♡

..... 4

ドン・キホーテ教授かく語りき 小島康次... 6

図書館員のススメ本 7

アルバイトーク／図書館からのお知らせ／編集後記
..... 8

画・川田裕之

図書館職場の雇用に見る不条理

文＝川村雅則

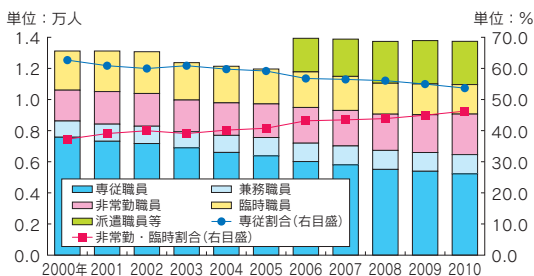
(かわむら まさのり／経済学部准教授)

ここ数年、非正規雇用をめぐる問題の調査研究活動に力を入れている。

非正規労働者からよく聞かれる不満や怨嗟の声を整理すると、(1) 仕事は恒常的に存在するにもかかわらず、期間を定められて雇用され、更新時期が近づくといつも不安など、雇用に関する問題群、(2) かつては正規雇用が行っていた業務を担うなど仕事内容の高度化の一方で、ワーキングプアという言葉が象徴するような賃金水準の低さで、しかも長期の勤続にも関わらず、昇給や退職金等はないなど、処遇に関する問題群、(3) 労働契約・労使関係がまるでないかのごとく労働条件を一方的に変更させられたり、正規雇用で組織される職場の労働組合もそのことを「我関せず」と見てみぬふりをする、関係性に関する問題群、となるだろうか。順に、仕事の恒常性と有期雇用の矛盾（ある研究者はそれを「偽装有期労働（雇用）」と表現するが言い得て妙である）／均衡・均等待遇をめぐる問題、処遇の不正／労使・職場関係からの排除とまとめておこう。

場違いに思われるかもしれないこんな話題をここに書いているのは、図書館職場もまた、数多くの非正規労働者に支えられているからだ。利用者にはそのことはわからないだろう。他の職場と同様に、非正規雇用の基幹労働力化が進む中で、彼らもまた、補助的・臨時的な業務に従事しているわけではないからだ（図書館司書の資格をもって働くものが多数である）。

図 雇用形態別にみた大学図書館職員数の推移等



注1：非常勤・臨時職員は正規の職員以外で、年間実働時間1500時間を1人として換算。

注2：2006年から「派遣職員等」の項目が追加される。

注3：専従割合と非常勤・臨時割合は、両者の合計を分母として算出した。

出所：日本図書館協会「日本の図書館」各年版より作成。

自治体職場でひろがる非正規雇用の実態を調べた労働組合¹によれば、図書館職場では62.7%が「臨時・非常勤職員だ」という。拡大しているとはいえ約3割である自治体職場全体の非正規割合と比べても、その値は突出している。いや、図書館に限らず、公民館、保育園など出先機関で非正規化は顕著である。それらの職場の特徴は女性労働者が多いことだ。図書館職場の非正規も、91.9%が女性だという。わが国の女性の社会的な位置づけをこの数値は物語る。

では彼らの処遇はどうか。2009年に労働組合と共同で実施した非正規労働者調査²の結果から、図書館職員の結果を抽出すると、例えば年収（税込み）は、200万円未満が58.9%、250万円まで範囲を広げると全体の88.4%がそこにおさまる。

「自分だけの収入では生活できない」「仕事は専門的で、業務量も多く、正職員と同じだけの時間を働く日もあるのに残業代は出ない」「非正規で諸手当もないのに業務面では正職員と同じ1人と数えられ理不尽」「とにかく身分が不安定」「非正規で図書館を運営している割に賃金が安い」等々、寄せられた声をあげればきりがない。

ところで、図書館職場のこうした非正規化は、大学図書館も同様である。日本図書館協会³によれば、非常勤・臨時職員に派遣職員等を足し合わせた人数は、専従職員の人数を上回る（図）。

「教育、文化、情報の活力であり、男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成するための必須の機関である」（ユネスコ公共図書館宣言1994年）という公共図書館の位置づけと、そこで働く人々のおかれた状況との乖離は、あまりに著しい。

¹ 全日本自治団体労働組合『臨時・非常勤等職員の実態調査報告（完全版）』2009年。

² 『北海道非正規労働者白書2009』日本労働組合総連合会北海道連合会、2009年。

³ 同協会が発行されている雑誌『現代の図書館』の「特集：図書館ワーキングプア（Vol.49 No.1）」がこの問題を取り上げているので参照されたい。

私が薦める
この1冊

林文子著

『失礼ながら、その売り方ではモノは売れません』（亜紀書房、2005年）

文＝井上真蔵

（いのうえ しんぞう／人文学部教授）

「はやし・ふみこ」と言うと、「ああ、あの『放浪記』の作家ですね」という人も多い。しかし、漢字では「林文子」と書き、日本を代表する経営者である。アメリカの雑誌『フォーチュン』では、2005年に「アメリカ以外で『最強の女性』として」10位に選ばれ、『ウォールストリート・ジャーナル』や『フォーブス』でも、「世界的に注目される女性経営者」として取り上げられている。

『失礼ながら、その売り方ではモノは売れません』は、この林文子の著書である。ここには日本を代表する経営者となった林文子のビジネスの軌跡が描かれている。高校卒業後、東レなどでOLをし、31歳でホンダの販売店に「初のセールス・ウーマン」として転職。これが林の人生の転機となった。トップセールスを成し遂げたのである。1年間で145台売った年もあったという。後にフォルクス

ワーゲン東京やBMW（東京）の社長を勤め、さらに異分野のダイエー再建を任されている。現在は横浜市の市長である。このように林文子がたどった軌跡を見るだけでも、「一体どんな風にして可能になったのか」という知的興味が沸いてくる。

この本は色々な読み方ができる。ビジネス書としても読めるし、組織論の視点からも見ることができる。セールスマンにとってはバイブルともなるであろう。成功した人の自伝として見れば、人生の哲学書となるかも知れない。私のゼミでは、日本人の心をつかむ「林文子流コミュニケーション」として、学生に読んでもらっている。日本人に年間100台以上の車売るということは、正に日本的コミュニケーションそのものなのである。そこには、英語社会の「論理的説得」とは異なる「感情的納得」という日本社会の特徴を見ることができるのである。

私が薦める
この1冊

芳沢光雄著

『「3」の発想 数学教育に欠けているもの』（新潮社、2009年）

文＝速水孝夫

（はやみ たかお／工学部准教授）

この本は「3」の発想が「数学的な法則を見抜く上でいかに大事か」ということを、ティッシュペーパーやドミノ倒し、あみだくじ、3項演算、三段論法など身近な例を挙げて説明し、著者の鋭い視点から現代の算数・数学教育に欠けているものを指摘している。

あみだくじを知らない人に教えるときに、縦の線が何本のあみだくじで教えるのが効果的だろうか？ 園児を対象とした実験の結果が紹介されている。縦の線が2本、3本、4本の3種類のあみだくじでルールを説明し、ルールが理解できたかどうかを実験したのだが、縦の線が2本よりも3本で説明した方が効果が大きく、3本と4本では説明の効果がはっきりと出ていなかった。「2」では「3」以上の世界が見えてこないが、「3」だと「4」以上の世界が見え

てくることが多いということをこのような例をあげて述べている。

近年のゆとり教育では、小学校の算数で縦書きの掛け算の取り扱いが、2桁同士の掛け算を学ぶのみとなっている。縦書き掛け算を完全に身につけるのには、3桁同士の掛け算を学ぶことが有効であり、4桁以上になった場合でもそれが応用できると述べている。

本の中には「3」を少し無理に関連づけているように感じる部分もあるのだが、全体としては中々面白い。数学を勉強していないと分からない例も書かれてはいるが、細かい点に目をつぶってしまえば、文系の学生でも楽しく読める内容となっている。是非読んでみることをお勧めしたい。

こんなこと、ありませんか？

- 必要な文献の探し方が分からない。

ある資料の参考文献欄に、小林敬孝「原価管理とVE」『会計』第137巻、第3号、62～64ページと記載されている。どうやって探したら良いのだろう？

- ほしい資料がOPACで見つからない。

OPACで検索してヒット数が0件だった。諦めるしかないのか？

- 他の図書館が所蔵している資料を見たい。

「Webcat Plus」というデータベースで検索したら、本学図書館にはないが、他大学の図書館にあることが分かった。入手は可能なのか？

そんなあなたをお助けする 強～い味方 レファレンス・カウンター を紹介します♡

レファレンスとは、調査や研究に必要な資料探しをサポートするサービスのこと📖

OPAC(蔵書検索)をはじめとした図書館の利用方法全般を説明したり、参考図書やオンラインデータベースを使って関連情報を調査、あるいは他の図書館・研究機関等との相互協力により、本学図書館に所蔵していない資料を提供したりと、様々なサービスを行っています。

本学図書館にない資料の入手方法

文献複写

他の図書館・機関等から必要箇所のコピーを
取り寄せることができる(コピー代、送料等は申込者負担)。

相互貸借

他の図書館・機関等が所蔵する図書を
借り受けることができる(往復分の送料等は申込者負担)。

紹介状発行

本学の図書館が発行する紹介状(他館利用願)を持参することにより、
他の図書館を利用できる。
なお、**大学図書館相互利用サービス**参加館を利用する際には紹介状は不要
(学生証、もしくは教職員身分証を持参)。

※「大学図書館相互利用サービス」の詳細は、図書館ホームページの「利用案内」、もしくは館内ポスターにてご確認ください。

レファレンス申込書

図書の場合は
こちらに記入

雑誌の場合は
こちらに記入

文献複写の場合は
こちらにも記入

レファレンス・サービスの利用を希望される方は、レファレンス・カウンターまたはサービス・カウンターで「レファレンス申込書」を受け取り、太枠内を記入して提出してください。

G-PLUS!キャビネットの全学生共通書式の中にもあります。

オススメ!



文献検索ツール (全て図書館ホームページより接続できます)

図書・雑誌の検索データベース

●Webcat Plus

全国の大学図書館等が所蔵している
図書・雑誌を検索できる。(収録件数1億件以上)

●国立国会図書館 (NDL-OPAC)

国立国会図書館が所蔵する図書・雑誌を
検索できる。



ここから
選択してね!

雑誌論文・記事の検索データベース

●CiNii

全国の大学図書館等が所蔵する
雑誌や大学紀要などの記事・論文を検索できる。

●MAGAZINEPLUS

一般誌から専門誌・大学紀要、海外誌紙まで
幅広く検索できる。



諦めないでっ!

資料を入手する方法はいろいろあります。資料探して困った時は、ぜひ『レファレンス・カウンター』を活用してください。

同文化内ディスコミュニケーション論の すすめ (その1)

●図書館長 小島康次

東日本大震災から半年、未曾有の災害は天災よりも人災の側面がより大きいことが徐々に明らかとなってきた。大津波についても予測されていたにもかかわらず、対処してこなかった関係機関の姿勢は、行政や企業のような組織が社会に与えるインパクト（リスク）をどう処理するかというマネジメントの問題として論議されるべきであろう。

ネット上では桑田佳祐とサザン・オールスターズの名曲『TSUNAMI』を流すことの是非という見当違いの議論も見られるが、むしろ音楽は心の傷を癒す効果もあるだろう。明治43年（1910年）、稲村ヶ崎沖で逗子開成中学ボート部の生徒12人を乗せたボートが転覆し全員死亡した。この事故を題材にした映画のタイトル『真白き富士の根（嶺）』は、彼らを悼んで作られた唱歌「七里ヶ浜哀歌」の唄い出しの部分で、この曲の俗称としても知られるようになった（原曲はアメリカ南部の讃美歌集「サザン・ハーモニー」に収録されている）。

「稲村ヶ崎」と言えば、同じく桑田佳祐とサザン・オールスターズの名曲『真夏の果実』を主題歌とする映画『稲村ジェーン』（1999年）の舞台。同じ波が伝説の波ジェーンになったり、あるいは若い命を奪う凶器となったりもする。

稲村ヶ崎の地名は『太平記』（14世紀頃）にも出てくる。元弘3年（1333年）、新田義貞の軍勢が（徒歩で干潟を渡り）難攻不落の鎌倉に立て籠もっていた北条高時を攻め滅ぼしたことで著名である。この時、義貞は潮の干満の知識を利用して、太刀を海に投げ入れ竜神に祈って敵の舟を沖に遠ざけるという演出をして味方の軍勢を鼓舞したと伝えられる。人が波を戦略的に使った例かもしれない。

さて、ここで問題。北条家は源氏だったのか平家だったのか。源頼朝の妻、政子（尼將軍）の実家であり、実朝亡き後、執権として鎌倉幕府を実質支配していた北条家。勿論、源氏であるに違いないと思うのが常識。ところが、北条家は歴とした平家だったのである。平家は壇ノ浦の戦いで滅亡したのでは？ 確かに平清盛に代表される伊勢平氏は滅んだ。滅

したのは源頼朝を大将に戴く源氏、いや、実は源氏と関東平氏の連合軍だった。平治の乱で源義朝が殺され、子の頼朝が流されたのが伊豆、蛭が小島だった。その地を所領していたのが伊豆平氏の北条家だったのである。

伊勢平氏（都市型）に冷や飯を食わされていた関東平氏（地方型）に源氏の御曹司を預けて監視させようとしたのは如何にもまずかった。関東平氏はここぞとばかり頼朝を神輿に担ぎ上げることで源氏との協力関係を築いた。北条政子が頼朝に嫁いだのは偶然ではないだろう。新田義貞（源氏）と北条家との戦は、源平合戦の最終バージョンだったとも言える。しかし、義貞の命運もそこまで。同じく源氏の再興を期して戦った兄弟同様の間柄の足利高氏（後の尊氏）との確執の結果、義貞が描いた天皇親政は成らず（後醍醐天皇による建武の新政の失敗）、新たな武家政権、室町幕府が尊氏によって建てられる。

現在の日本の政治状況との相似形。民主党は自民党旧田中派の出身者、小沢一郎、鳩山由紀夫、岡田克也、羽田孜、奥田敬和、渡部恒三（旧竹下派七奉行のうち四人が含まれている）らが野党を糾合してできた寄り合い所帯の政党だ。民主党と自民党の関係は二大政党ではなく、自民党の二大派閥が政党化しただけとも言えなくもない。小泉元首相以下、三人の首相は旧福田派の流れを汲む政治家達である。都市型（競争原理）の福田派と地方型（平等原理）の田中派の間の抗争がついに派閥間の争いから政党間の争いに格上げされたのが今般の政治状況。確かに、アメリカの二大政党（共和党と民主党）制に近づいたようにも見える。しかし、

実際のところ、アメリカの政党間ほど大きな違いはないのである。両党のマニフェストとやらを読んでみれば分かるがほとんど差がない。母性原理の社会において本当の意味で対立軸をもった政党政治は難しいのかもしれない。

ところで、民主党のシンボルロゴ入りの旗（図1）を急ぎよ作る際に、日



図1 民主党のシンボルマーク

の丸を一部改ざんして間に合わせた事務所があったということで非難する声が上がった。これは勿論、悪意でやったことではないであろう。しかし、新田義貞と足利高氏の戦闘においては、新田軍が小競り合いの最中に拾った敵の旗、足利の紋所「二つ引両」(図2)の真ん中を塗りつぶして、これで新田家の「大中黒」(図3)になったと氣勢を上げたというエピソードが残されている。まさか民主党、忠



図2 二つ引両
(足利氏)

臣新田義貞の輩に倣ったわけでもあるまいが…。

我が国の政治の波は何処に向かうのか。大連立はあるのか。「…砂に書いた名前消して、波は何処へ帰るのか…」(『真夏の果実』より)



図3 大中黒
(新田氏)

注：社会に与えるインパクト：企業の活動が社会に与えるリスク(負の影響)のこと。ピーター・ドラッカーは、企業の社会的責任は、自らの活動によって引き起こされる問題に対するのは勿論、それと直接関わりない社会全体の問題に対しても生じるとする。

図書館員のススメ本

川田裕之

太陽がイッパイいっぱい

三羽省吾著 新潮社 2002 【本館開架3F 請求記号913.6/MIT】

えー、本学の図書館にある本の紹介ということですが、となると当然、対象は学生となるわけですねー。自分が学生の時にはどんな本を読んでいただろうか…。今の学生諸氏はどのような本を好むのだろうか…。やはりドストエフスキーあたりがよいのだろうか…と考えすぎてもナンですので、取りあえず昨年読んだ中で、これぞ、という本を紹介しようかな。

で、表題の本なのだが、主人公が大学を休学し、キツい解体現場で働き、そこで様々な人々とふれ合う、といった内容である。が、これだけだと、なんだ、要は“自分探し”の本ね、などと思われるかもしれない。確かに、そういう側面もなくはないのだが、しかし私も既についているので、今更“自分探し”的な小説を読んで楽しめる清新な感覚はとうに無いのだ。それを、こうして推薦する、ということはそんじょそこらにある“自分探し”小説とは一味も二味も違うのです。大阪を舞台に、流れるような展開、アクション、バイオレンス、しょうもない会話の数々。しかし、決して軽く上滑りではないのだ。

また、先にも述べたが、主人公は解体現場で

働いているのだが、職場の描写が実にヨイ。私も学生の頃は、実入りの良さに惹かれて、肉体労働をしていたので、この小説の世界観が、とても懐かしくもリアルに感じました。ラストは若干ワカモノらしい初々しさもあるが、これは本書が、作者のデビュー小説だからであろう。ホンモノ、といわれるモノは書籍であれ音楽であれ何であれ、世代を超える、というのが持論なので、様々な年代の人々が楽しめる青春小説というのは、やはりホンモノと言っていいのではあるまいか(ホントかなあ)。

と、いうわけで、とにかく読んで損はない、と思います。

なお、他に本学図書館にある三羽省吾の作品は、「路地裏ビルジング」があります(ああ、1冊だけかあ)。

ちなみにOPACで「三羽省吾」を検索すると「Sweet blue age」という本もヒットしますが、これは複数の小説家の作品集で、しかも何故か三羽省吾に関しては、氏の「ニート・ニート・ニート」という作品の冒頭部分しか掲載されていないのだ。なんだこりゃ？

図書館は学生の味方

文＝幅田 済

(はばた わたる)

大学院法学研究科 修士課程1年

私は本をあまり読まない学生でした。図書館には読みやすい特定の参考書を必要のある時に読みに来るだけで、図書館を有効活用していたとは口が裂けても言うことのできない学生でした。大学院に入ってから、たくさんの専門書が必要になり、図書館を利用することが多くなりました。最近、段々と本学図書館のことが分かってきた気がします。

そんな私が言いたいことは、図書館はすごいということと、楽しいということです。勉強に必要な本は図書館で探せば、何らかの手がかりがつかめます。閉架書庫の中は探検しているだけで楽しいです。そして何より、図書館職員の方々は皆さん本当に良い人なのです。本を探していて困ったらとりあえずカ

ウンターにいる職員の方を頼ってみることをお勧めします。優しく色々なことを教えてくれます。ほとんどのことは何らかの解決方法を提案してくれます。

そうして、OPACの使い方、請求表の見方、閉架書庫・AVブース・PCブースの利用法などが分かってきて、見つけにくい本を発見したときに喜びを感じだした頃には、あなたはもう図書館の虜です。少しでも興味や疑問を持ったことは図書館で検索してみてください。いつの間にか勉強が楽しいと感じるようになっていていると思います。

図書館は大学の象徴の一つです。図書館を利用する学生が一人でも多くなることを願っています。ご利用お待ちしております。

図書館からのお知らせ

図書展示会『写真で巡る札幌～明治～昭和初期～』展

下記の日程・場所で開催しております。一度見にきてください。

場 所：図書館本館1階自由閲覧室前

開催期間：2011年10月1日～2012年3月31日

編集後記

9月に蔵書点検を5日間かけて行いました。全日閉館しましたので利用者の方にはご迷惑をお掛けしました。申し訳ありませんでした。

蔵書点検という業務を少しご紹介します。今回は、10万冊を超える図書を対象に行いました。皆さんが本を借りる時に使う資料バーコードIDを読み込んでいきます。(かなりの肉体労働です。)

読み込んだデータを照合していくと、置かれている場所が

間違えていたり、データがおかしかったりするものだったり、いろいろなものが出てきます。このようなものを元の場所に戻したり、データを直したりして、日常利用する利用者の皆さんが図書を探す時に困らないように蔵書点検というものが必要なのです。

このような普段みなさんが知らない仕事も図書館にはたくさんありますが、利用者の皆さんが利用しやすい環境を図書館では日々めざしております。